

## 別紙 企画展「あいちの発掘調査 2025」主な展示品



### 1 陶製狛犬

西二葉町遺跡（愛知県名古屋市東区）

江戸時代後期

愛知県埋蔵文化財調査センター蔵

西二葉町遺跡は名古屋城の東に位置する江戸時代から近代にかけて営まれた武家屋敷・学校跡。本資料は江戸時代の犬山城主の成瀬隼人正の中屋敷に関する井戸において、狛犬の頭から体の上半分が出土した。形態や痕跡から獅子が口を開けた阿形像で、前足を折り曲げて顔を横に向かう姿勢のものである。唐獅子スタイルの初期の例として貴重な資料である。



### 2 古瀬戸四耳壺

青山神明遺跡（愛知県西春日井郡豊山町）

室町時代

愛知県埋蔵文化財調査センター蔵

青山神明遺跡は県営名古屋空港の西に位置する古墳時代から江戸時代にかけて営まれた集落遺跡。本資料は室町時代の大きな穴から出土した。高さ約28cmのほぼ完形品の壺で、全体に灰を溶媒とした釉薬が流し掛けられており、肩部に4つの耳と呼ぶ粘土紐が付く。本資料のような壺はお経を土中に埋納する時の容器や骨壺として転用されるものが多い。



### 3 円窓付土器

森後町遺跡（愛知県名古屋市熱田区）

弥生時代後期

名古屋市教育委員会蔵

森後町遺跡は名古屋台地の南端付近、高蔵遺跡と熱田神宮の中間に位置する縄文時代晚期から近代にかけての遺跡で、特に弥生時代後期には4基の方形周溝墓が確認されている。本資料は、そのうちの1基の周溝から出土しており、本来は墳丘上に据えられていたと考えられる。一般に円窓付土器は弥生時代中期後葉のものが多く、弥生時代後期の円窓付土器は極めて珍しい。

写真提供：名古屋市教育委員会



写真提供：幸田町教育委員会

#### 4 金銅製帶金具

青塚古墳（愛知県額田郡幸田町）

古墳時代中期後葉から後期

幸田町教育委員会蔵

青塚古墳は古墳時代中期から後期に造られた全長約 40m の前方後円墳である。埋葬施設は北部九州に起源を持つ<sup>たてあな</sup>堅穴系横口式石室で、令和 5 年度から保存整備のための学術調査が行われている。本資料は明治 43 年の耕地整理に伴う土砂の採取で偶然見つかった埋葬された人のベルトに付ける飾金具で、龍の透かし彫りが入った優れた品である。



写真提供：西尾市教育委員会

#### 5 須恵器提瓶

エベス塚古墳（愛知県西尾市）

古墳時代後期

西尾市教育委員会蔵

エベス塚古墳は古墳時代後期に造られた直径約 20m の円墳である。調査の結果、埋葬施設は佐久島産泥岩（佐久石）<sup>でいがん</sup>で造られた横穴式石室であることが判明した。本資料は、鉄製の刀や<sup>よこあな</sup>鏃<sup>やじり</sup>とともに石室内から出土した。